

< 調査報告 >

台湾の日本語学習者の言語学習の「確信」について

台湾大学の学習者の場合

台湾大学日本語文学系 講師

服部美貴

The Beliefs of Taiwanese Learners of Japanese Language in Language Learning : Through a Survey Conducted at National Taiwan University in Taiwan

HATTORI Miki

1. はじめに

外国語教育を効果的に行うには、教師による効果的な教授法に加え、学習者の積極的な学習への関与、つまり学習者の自律が不可欠である。近年の外国語教育の傾向は、従来の「教師主導」から「学習者中心」へと移行しつつあるが、その際には教師自身が言語学習に関わる学習者の様々な要因について把握することが必要である。言語学習に関わる学習者自身の要因は、個性、動機、学習目標のほか学習スタイル、学習ストラテジー (=language learning strategy, 以下「ストラテジー」) などがある (Ellis, 1994:Part five) が、Horwitzは、言語学習の「確信」 (=beliefs about language learning, 以下「確信」) をそうした学習者の言語学習行動を支えるものとして位置付けている (Horwitz, 1988, p.283)。

「学習者中心」の外国語教育とは、言うまでもなく、教師が学習者の言いなりになると

いうことではない。教師が学習者の学習に対する主体性を育むということである。しかしながら、教師と学習者とのそうした関わりにおいて、学習者の「確信」と教師のそれとの間にズレがあり、その結果教育効果があがらなかったという報告もある (Kern 1995, 板井 2000)。即ち、新しい教授法を成功裏に採用するためには、それに基づく教材や教室活動の開発や創造のみならず、学習者の持つ確信への何らかの対応が必須条件なのである (岡崎, 1996, p.27)。

日本語学習者が多様化する中で、出身国も年齢も多岐にわたる日本国内における日本語教育と比べると、台湾の大学生への日本語教育という状況においては、外国語学習に関わる要因はかなり絞られていると言える。こうしたことから、台湾の大学においてそこでの学習者の日本語学習に対する確信について理解することは、効果的な日本語教育を行うために大切な手がかりになると考える。

2. 言語学習の確信に関する先行研究

1980年代以降、外国語教授法の革新と学習者を中心とした言語教育への転換が図られる中で、言語学習者の自律性が重視されるようになってきている。Rubin (1975) や Stern (1975) による「優れた」外国語学習者 ('good' language learner) が使用するストラテジーの研究に端を発した言語学習ストラテジーは、後に自律学習を支える学習者の行動として注目され、自律学習に有用なストラテジー研究が行われるようになった。日本語教育の分野でも、岡崎・長友 (1990) や伴 (1992) らによってその成果が報告されている。

その中で、言語学習の確信は学習者のストラテジーを支配する要因として、第二言語習得研究の分野で様々な研究が行われている (Abraham and Vann, 1987; Horwitz, 1987, 1998; Wenden, 1987 など)。こうした学習者の確信を把握するために、Horwitz (1987) は BALLI: Beliefs About Language Learning Inventory (以下 BALLI) を開発した。BALLI は ①言語学習に対する適性 ②言語学習の難易度 ③言語学習の性質 ④コミュニケーション・ストラテジー ⑤言語学習の動機の 5 領域からなる 34 項目について「強く賛成」から「強く反対」までの 5 件法で回答する質問紙調査である。

しかしながら、こうした第二言語習得研究に基づく外国語教育の変遷は、主に欧米諸国で誕生したもので、欧米で開発された教授法はそこでの学習環境や学習特性を考慮したものであり、アジア圏の学習者に適しているわけではないという可能性もあって、板井 (2000) は香港の大学での日本語学習者と日本人教師、中国人教師を対象に、確信の調査を行った。その結果、日本人教師、中国人教

師、学習者の間にいくつかの確信についてズレが見出された。そこで板井は香港の大学での日本語学習者の伸び悩みの原因は一部教授法にあるとして、中国人学習者が慣れている教育方法を模倣し、暗記学習に強いという彼らの優れた点を最大限に生かす一方で、彼らの日本語学習観の土台を揺り動かさない程度に徐々に学習に効果的とされる確信や教授法を導入していくことの必要性を指摘している。

岡崎・堀 (2000) は、韓国の大学の日本語学習者を対象に ①日本語学習経験による確信の変化 ②日本語の学習成績と確信の間の相関関係、③確信による日本語の学習成績の予測の 3 点を研究課題として確信の調査を行った。その結果、一年間の初級日本語の学習経験によっては「2. 外国語の学習能力は誰でも持っているものではない」「5. 私は日本語が話せるようになる」「8. 日本語が話せるようになるには日本文化についての知識が必要だ」「22. 学習の初期に誤りを訂正されていないと後で直すのが難しい」の 4 項目以外では統計上有意な変化は見られず、学習者は強固な確信を持って学習に臨んでいること、また「1. 外国語学習は大人より子供の方が有利である (- -)¹⁾」「6. 私の国 (韓国) の人々は外国語学習の特別な能力がある (- -)」「7. よい発音で話すことが大事だ (- -)」「15. 毎日 1 時間勉強するとすれば一年以内に上手に話せるようになるだろう (+)」「28. 言語学習で最も重要なことは自分の国の言葉に翻訳することだ (- -)」の 5 つの確信の項目については学習成績との間に正や負の相関がある、つまりある確信を強く持っているか否かが学習の成功と結びつく可能性があることが見出された。更に回帰分析

1) () 内の + は正の相関、- は負の相関を表す。つまり、ある確信について正の相関がある場合、その確信が強いほど学習は成功し、負の相関がある場合はその確信が弱いほど学習が成功するという意味である。

を行った結果、前述した項目1・7・28の確信を持っている学習者はよくない成績が、項目15と「23. 外国語学習でもっとも重要なのは文法学習だ」という確信を持っている学習者はよい成績が予測されるという結果が現れた。こうした確信と成績との相関については統計的な分析に加え、実際に個々の学習者について検証される必要がある。

Yang (1999) は、台湾の大学生505人を対象に、英語学習におけるBALLIとOxford (1990) が開発したSILL:Strategy Inventory for Language Learning (以下SILL) の調査を実施し、確信とストラテジー使用との相関を調べた。そのうち確信については、いくつかの矛盾が存在することが指摘されている。例えば「正しく言えるようになるまで話すべきではない」を92%が否定している一方で、「学習の初期に誤りを訂正されていないと後で直すのが難くなる」を80%が肯定しており、これについてYangは学習者はできるだけ話す練習をしたほうが良いと認識しつつも間違いを恐れていて、それが口頭スキルの進歩の妨げになっていると分析している。また、学習者は口頭スキルを重要視し、且つ興味を持っていることとしている反面、外国語で話すことへの恐れも垣間見られている。確信とストラテジー使用との相関について、確信においては「外国語学習にはたくさんの暗記が必要」という回答が90%を超えていて、圧倒的な確信が表れているのに対し、ストラテジー使用においては認知-記憶に関するストラテジー使用が少なく、有意な相関があるストラテジーがない。このことと学習者の自由記述による回答をあわせると、語彙、文法、文章をおぼえる際「繰り返し」「まる暗記」という暗記の方法が中心で、使用されるストラテジーの種類が非常に限定されていると分析された。そして教師の役割としては学習者が外国語学習に効果的な確信を持つように導き出す

こととした。それは効果的な学習ストラテジー使用を促すことにつながり、その結果学習者が学習を継続する動機につながるというものである。

アジア圏の学習者といえば一般的に、「文法・翻訳重視」、「教師主導型」、「受動的」、「暗記中心」と特徴付けられることが多いことについて、岡崎・堀 (2000, p.186) は Horwitz (1988) や Kern (1995) らによって欧米言語を学ぶ欧米人にも同様の傾向が見られることが報告されていることから、言語学習に対する確信それ自体は一枚岩ではないし、文化によって一義的に決まるものではない、との見方をしている。

そこで筆者は効果的な教授法を探るには、教師の学習者に対する先入観あるいは思い込みよりも、Horwitz (1988) が述べているように、実際の学習者が言語学習に関してどのような確信を持っているのかを把握することが有効であると考え、まず筆者の勤務する台湾大学の日本語学習者を対象として言語学習に関する確信の調査を行った。

3. 方法

3.1 調査対象

調査は台湾大学の a 非日文系1年生 (社会科学院、管理学院、法律学院の、第二外国語として日本語を選択している者) 43人 (男21人、女22人)、 b 日文系1年生45人 (男12、女33)、 c 日文系4年生33人 (男1、女32) の3つのグループ計121人 (男34人、女87人) を対象に行った。

同時に実施した言語学習調査表 (後述) によって被調査者の個人的な学習背景を調査した。表1はその言語学習調査表のうち、被調査者の大学入学前の日本語学習経験、大学の授業以外での日本語学習経験、英語と日本語以外の外国語学習経験者の人数である。

<表 1> 各グループの日本語学習経験および外国語学習経験

() は男女の内訳を表す。

	a 非日文系 1年生 43人 (21/22)	b 日文系 1年生 45人 (12/33)	c 日文系4年生 33人 (1/32)
大学入学前の日本語学習経験	なし：29人 (20/19) 1年：3人 (0/3) 2人は独学 3年：1人 (1/0) 独学	なし：41人 (11/30) 1年：3人 (0/3) 3年：1人 (1/0)	なし：40人 (1/29) 無回答：3人 (0/3)
大学の授業以外での日本語学習	なし：41人 (20/21) あり：2人 (1/1)	なし：44人 (12/32) あり：1人 (0/1)	なし：31人 (1/30) あり：2人 (0/2)
英語以外の外国語学習経験	なし：39人 (19/20) フランス語：2人 (0/2) ²⁾ ドイツ語：2人 (1/1) スペイン語：1人 (1/0)	なし：42人 (11/31) フランス語：1人 (0/1) ドイツ語：2人 (1/1)	なし：32人 (1/31) ドイツ語：1人 (0/1)

3.2 調査実施時期

1999年12月末、第1学期終了前の授業時間内に調査表の配布、記入、回収を行った。

3.3 調査項目

Horwitz (1987) によるBALLIに修正を加えた岡崎 (1996) の44項目からなる調査表を中国語に翻訳したものを使用した。被調査者はそれら44項目について、1 (強く賛成する) 2 (賛成する) 3 (どちらでもない) 4 (反対する) 5 (強く反対する) の5つの尺度で回答する。また同時に学習者の言語学習に関する個人的背景を知るために、Oxford (1990, p282-289) の「言語学習調査表」に一部手を加え、中国語に訳したものも実施した。今回はその「言語学習調査表」のうち、言語学習の確信に関係のある項目「Q.16 外国語学習で楽しかった経験」「Q.17 外国語学習で辛かった経験」「Q.18 外国語学習の成功のために必要な条件」について、考察を加えていくことにする。なお調査結果の数字については、調査対象の各グループの人数が少数であるため、統計上の有意差検定は行わず、回答の平均と百分率により検討した。

3.4. 研究課題

本稿では台湾の日本語学習者の確信の傾向を把握するための一歩として、①台湾大学の日本語学習者はどんな言語学習の確信を持っているのか、を主な課題とする。それに加え、②外国語学習の経験(期間)によって確信は変化するのか、③英語学習における確信との相違はあるのか、を先行研究との比較により検討する。

まず、①では台湾大学の日本語学習者の言語学習の確信について、賛成よりの項目、反対よりの項目、そして中立的な項目を抽出し、それとあわせて、BALLIと同時にを行った言語学習調査の中の確信に関わる自由記述による質問「Q16. 外国語学習で楽しかった経験」「Q17. 外国語学習で辛かった経験」「Q18. 外国語学習の成功のために必要だと思う条件」から、学習者の確信について概観する。

言語学習者は明確な確信を持ち、しかもその確信はかなりの程度固定し安定したものであると言われている (Wenden and Rubin 1987, 岡崎・堀2000)。しかし一方でHorwitz (1987) は学習者の確信は教師の指導によって可変的であると指摘しているし、板井 (2000) では、

2) 1人の女子について、フランス語とドイツ語の両方の学習経験がある。

日本で語学留学などの経験がある上の学年では確信の傾向が変わっていることが報告されている。また、学習者の確信は、文化的背景よりも、授業をする教師の方針に影響されているとも言われている (McCargar 1993, Yang 1999)。斎藤 (1998) は学習者の自律学習を目指して学習者の確信の変容を図る取り組みを実施し、変容しやすい確信及び確信が変容しやすい学習者のタイプについて分析している。

これらのことから研究課題の②として、日本語の学習期間によって、或いは日本語の学習経験によって確信が変容するのかどうかを、学習を開始して一学期がたったばかりの1年生 a 非日文系 b 日文系と、日文系で日本語や日本文学を専攻して3年半になる日文系の4年生 c を比較し、学習経験による確信の違いがあるのかどうかを見ていくことにする。

③では、Yang (1999) の台湾の大学の英語学習者を対象に行ったBALLIの結果との比較により、少なくとも中学校、高校で6年間の学習経験のある英語と、ほとんどの被調査者が大学に入ってから学習を始めている日本語と、それぞれの確信についての相違点の有無について見てみる。

4. 結果と考察

4.1 台湾大学の日本語学習者はどんな言語学習の確信を持っているのか

BALLIの各項目への回答から、1 (強く賛成する) と2 (賛成する) への回答者が75%を超えた項目を賛成よりの項目、4 (反対する) と5 (強く反対する) への回答者が75%を超えた項目を反対よりの項目、3 (どちらともいえない) が50%を超えた項目を中立的な項目とした。

表2 は賛成よりの15項目である。各グループの上段 [] は各項目の回答の平均、

下段は (1への回答者数/1への回答者の百分率、2への回答者数/2への回答者の百分率) を表す。賛成よりの回答が75%を超えなかった項目については、そのグループに数字がないが、75%にわずかに及ばなかったものには平均の後ろに*印をつけた。【 】は、Horwitz (1987) による5つの領域を表す。

まず賛成よりの項目では、「40. 外国語学習では、教師は知識を与えてくれればよく、それを使えるようになるかどうかは自分の責任だと思う」、即ち教室での学習は知識を得るところであり、その教室は「1. 何をどのように教えるかを考え実施するのは教師の責務である」から教師によってコントロールされるものと考えられている。

そして「2. 大人よりも子どもの方が外国語を習得するのは易しいと思う」「12. 外国語学習の最良の方法はその言葉が使われている場所で生活することだ」「42. 外国語は特に学校などに通って学習しなくても、その言葉を使う環境の中にいれば自然に身につくものだと思う」「39. 外国語の学習で最も重要なのは、その言葉を実際に使う経験をたくさんすることだと思う」などから、言語学習においてそれを使用する環境が必要で、教室でのフォーマルな学習よりも、自然習得による効果が高いと信じられている。これは言語学習調査表「Q.18 外国語の上達のための必要な条件」についての自由記述の回答で、どのグループにおいても「日常生活の中で接触する/使用する/慣れる」が一番多く、それ以外でも「環境」を重視する意見が最も多かったことにもつながる。こうして見てみると、被調査者は外国語の上達は教師や教室に依存するよりも自己の積極的な関わりによるものだという主体的、自律的な側面がある。

また、「20. 外国語学習では繰り返し練習することが大切」「37. 外国語学習の初期では単純でばからしいことしか話したり理解したりできないが、それを我慢しなければ上達

表 2 賛成よりの項目

No.	項 目	a 非日文系 1 年	b 日文系 1 年	c 日文系 4 年
	【 1 . 外国語学習の適性】			
2	大人よりも子どもの方が外国語を習得するのは易しいと思う	[1.62] 19/44.2, 21/48.8	[1.78] 21/46.7, 14/31.1	[1.24] 25/75.8, 8/24.2
35	誰でも学習すれば、外国語を話せるようになると思う		[1.96] 9/20.0, 30/66.7	[1.90] 8/24.2, 19/57.6
	【 3 . 外国語学習の性質】			
8	外国語を話すためにはその背景にある文化について知識を持つ必要がある	[1.98] 12/27.9, 23/54.5	[1.78] 14/31.1, 28/62.2	[1.70] 15/45.5, 14/42.4
12	外国語学習の最良の方法はその言葉が使われている場所で生活することだ	[1.51] 27/62.8, 11/25.7	[1.53] 25/55.6, 17/37.8	[1.39] 21/63.6, 11/33.3
	【 4 . 学習およびコミュニケーションストラテジー】			
7	外国語を話すとき、いい発音で話すことは重要だと思う	[1.67] 20/46.5, 18/41.9	[1.78] 15/33.3, 25/55.6	[1.42] 20/60.6, 12/36.4
13	外国語を学習しているとき、その言葉を母語とする人と話すのは楽しい		[1.76] 18/40.0, 20/44.4	[1.58] 18/54.5, 11/33.3
14	その外国語でわからない語彙などがあつたら、その意味を推測することは当然だと思う	[1.88] 11/25.6, 28/65.1	[2.00] 14/31.1, 21/46.7	[1.88] 6/18.2, 25/75.8
20	外国語学習では繰り返し練習することが最も重要だと思う	[1.67] 18/41.9, 21.48.8	[1.98] 9/20.0, 30/66.7	[1.85] 10/30.3, 18/54.5
24	外国語を学習し始めた最初の時期に誤りを訂正されないと、後で直すのが難しくなると思う	[1.82] 10/23.4, 26/60.5	[1.96] 10/22.2, 30/66.7	[1.74] 9/27.3, 21/63.6
	【 5 . 学習動機】			
32	外国語を習得すれば、自分の仕事を含めた経歴にプラスになると思う	[1.47] 20/46.5, 18/41.9	[1.60] 19/42.2, 25/55.6	[1.58] 13/39.4, 18/54.5
	【外国語の授業および学習】			
1	何をどのように教えるかを考え実施するのは教師の責務である	[1.60] 23/54.5, 15/34.9	[1.51] 25/55.6, 17/37.8	[1.27] 25/75.8, 7/21.2
37	外国語学習の初期においてはきわめて単純でばからしいことしか話したり理解したりできないけれども、それを我慢しなければ上達しないと思う	[1.89] * 10/23.3, 20/51.2	[1.98] 10/22.2, 28/62.2	[2.00] 2/6.1, 26/78.8
39	外国語の学習で最も重要なのは、その言葉を実際に使う経験をたくさんすることだと思う	[1.71] 14/32.6, 21/48.8	[1.57] 19/42.2, 25/57.8	[1.58] 13/39.4, 18/54.5
40	外国語学習では、教師は知識を与えてくれればよく、それを使えるようになるかどうかは自分の責任だと思う	[1.86] 10/23.3, 23/53.5	[1.82] 14/31.1, 26/57.8	[1.71] 14/42.4, 13/39.4
42	外国語は特に学校などに通って学習しなくても、その言葉を使う環境の中にいれば自然に身につくものだと思う	[1.88] * 13/30.2, 19/44.2	[2.13] * 9/20.0, 24/53.3	[1.74] 10/30.3, 19/57.6

しないと思う」では、単調な学習に対する忍耐強さも垣間見られる。

下の表3は反対よりの2項目で、表中の表示の各グループの下段の数字は(5への回答者数/5への回答者の百分率、4への回答者数/4への回答者の百分率)を表す。

前述したように被対象者が教室以外の場でも積極的に学習言語と関わろうとしている姿勢が見られるが、その反面、反対よりの項目ではcのグループでは「43.外国語の教室では、実際に母語話者が使っている言葉(スラングなど)を学ぶ必要はない」への反対よりの意見が多い。こうした内容は教科書では扱っていないことが一般的で、それも授業で扱うことを希望しているというのはいささか矛盾しているようにも見受けられるが、次のような解釈もできる。

つまりこれは言語学習調査表「Q.16外国語学習で楽しかった経験」への回答で多かったものが各グループで共通して「学習言語の母語話者とのコミュニケーション」、次いで「テレビドラマの台詞などが理解できたとき」の順になっていることも関わりのあると思われる。台湾では日本の人気ドラマ、ポップスなどの情報、雑誌や漫画などの日本語の書籍や日本の商品も気軽に手に入り、日本語の学習者でなくても日本語、日本の物や情報に接するのは日常なことである。これは日本国外での日本語学習者にとっては特殊な状況

とも言える。待遇表現が複雑な日本語において、特に日本国内での学習者から教科書の日本語と現実で使用されている日本語が違うことについての不満が聞かれることが多いが、こうして「ナマ」の日本語が溢れる中で、学習者は教科書の中の日本語だけでは不十分だと感じ、教室でも扱うべきだと考えている、ということである。

中立的な項目を表す<表4>では、各グループの下段の数字は(3への回答者数/3への回答者の百分率)を表す。

5・6・18から自分や自分の国の人々の外国語習得能力について、中立的に考えることが多い。更に外国語学習で最も重要な部分として「19.語彙の習得」「25.文法の習得」が中立的な意見になっており、「31.翻訳学習」は「どちらでもない」か「賛成」がそれらに比べて多くなっている。これは「語彙の習得」の賛成よりが半数以上、「文法」は約4分の1、「翻訳」は11%以下であったYang(1999)の結果と多少異なる。

賛成よりの項目の「24.外国語を学習し始めた最初の時期に誤りを訂正されないと、そうした誤りはずっと残ってしまい後で直すのが難しくなると思う」、反対よりの項目の「9.外国語を学習するとき、正しく言えるようになるまでは話すべきではないと思う」の回答については、Yang(ibid.)の台湾の大学の英語学習者の調査だけでなく、アメリカ

表3 反対よりの項目

No.	項目	a 非日文系1年	b 日文系1年	c 日文系4年
9	【4.学習およびコミュニケーションストラテジー】 外国語を学習するとき、正しく言えるようになるまでは話すべきではないと思う	[4.07] 13/30.3, 22/51.2	[4.00] 13/28.9, 22/48.9	[3.94] 5/15.2, 22/66.7
43	【外国語の授業および学習】 外国語の教室では、実際に母語話者が使っている言葉(スラングなど)を学ぶ必要はない		[4.22] 13/28.9, 30/66.7	

表 4 中立的な項目

No.	項 目	a 非日文系 1 年	b 日文系 1 年	c 日文系 4 年
	【 1 . 外国語学習の適性】			
6	私の国の人は一般に外国語学習が得意だと思う	[2.98] 25/58.1	[2.93] 29/64.4	[2.97] 22/66.7
18	私は外国語学習のための特別な能力を備えていると思う	[3.02] 22/51.2	[2.80] 25/65.6	[3.06] 17/51.5
	【 2 . 外国語学習の難易度】			
5	私は外国語学習が得意だと思う	[2.98] 23/53.5	[2.78] 23/51.1	[2.88] 18/58.5
15	もしある外国語を習得するのにある人が一日 1 時間使うとすると、その言葉が話せるようになるまでに一年かかる	[3.35] 22/51.2	[3.36] 26/57.8	[3.15] 21/63.6
	【 2 . 外国語学習の性質】			
19	私は外国語学習の最も重要な部分は語彙の習得だと思う	[2.67] 22/51.2	[2.47] * 2/21/46.7	[2.45] 2/15/45.5
25	外国語学習の最も重要な部分は文法の習得だと思う		[3.22] * 21/46.7	[2.71] 18/54.5

におけるフランス語、スペイン語、ドイツ語の学習者を対象に行った Horwitz (1988) によっても同様の結果が報告されており、それらの先行研究では学習者は一貫性のない矛盾した確信を持っていると分析されている。

前述したように、今回の調査では被調査者は実際にその外国語を使用してみる環境や経験を重視している。また言語学習調査表の「Q.16 外国語学習で楽しかった経験」では学習言語の母語話者とのコミュニケーションという回答が最も多かったし、BALLI の「13. 外国語を学習しているとき、その言葉を母語とする人と話すのは楽しい」でも b 日文系 1 年生と c 日文系 4 年生に賛成よりの回答が多い。このようなことから、筆者はこれを矛盾というよりは、被調査者は「誤り」を恐れず実際に外国語を使用することがまず大切で、そしてその過程で「誤り」があれば直してほしいと考えているのだと解釈する。しかし、その「誤り」や「正しく」というのは、発音であるのか文法的正確さなのか、あるいは語用論のレベルを指すのかは、この調査からは知ることはできない。被調査者がど

のレベルでの正確さを重視しているのかという問題については今後更に調査を進める必要がある。

4.2 外国語学習の期間によって確信は変化するのか

前節で見たように、賛成よりの項目 15 項目のうち 11 項目は a b c どのグループも共通している。75% に近い * を含む 2 項目を加えると 13 項目が 3 つのグループで共通していることになる。反対よりの項目 2 項目のうち 1 項目は a と c が、もうひとつの項目は a と b が共通している。中立的な項目については 6 項目のうち 4 項目は 3 つのグループで共通しており、* のついている項目を加えると 5 項目になる。

即ち賛成より、反対より、中立の項目のうち特に賛成よりと中立の項目について、21 項目中 18 項目は 3 つのグループに共通していることになる。また反対よりの 2 項目についても、「9. 外国語を学習するとき、正しく言えるようになるまでは話すべきではない」では b は 75% には達していないものの、4

(反対する)への回答は単独で半数を超えているし、「43. 外国語の教室では、実際に母語話者が使っている言葉(スラングなど)を学ぶ必要はない」では c の回答も70%に近い。

4年生に特徴的なのは、「7. いい発音で話すことは重要だ」への賛成の割合が97%と非常に高いこと、「10. すでに一つの外国語をマスターした人がもう一つの別の外国語を学習するのは易しいと思う」への確信が a c の一年生グループと比べると分散していることである。前者については学習を進めるうちに、授業の影響や日本人との関わりの中で、発音の大切さを自覚していったものと思われる。また、後者については日本語学習を開始して間もない一年生と違って、少なくとも3年半にわたる二つ目の外国語である日本語学習を通して、日本語の学習には英語学習とは異なる側面を実感したのであるうか。

同一の学習者を対象にした縦断的な調査ではないので学年間にももとの確信の違いがあることは否定できないが、これらのことから3つのグループの間において、それぞれの確信においての大きな違いはない、つまり学習期間や経験によっては確信はほとんど変化していないと言えるだろう。

4.3 英語学習における確信との相違

Yang (1999) による台湾の大学生の英語学習者を対象に行ったBALLIの調査では、賛成より或いは反対よりの傾向にある回答、即ち75%を超えるものは、調査した35項目のうち13項目であるが、そのうち6項目は90%を超えており、それらに対してはかなり強い確信を持っていることがわかる。次頁 **表5** がその13項目で、はYangによるBALLIの35項目の因子分析の結果分類した因子、はその下位因子である。

13項目のうち、今回の調査表になかった2項目と、設問に問題があったため比較が不可

能な項目22を除外した10項目を見てみると、5項目については今回の調査でも3グループともに75%以上の賛成より或いは反対よりの回答があったもので、さらに2項目は3グループ中2グループが75%以上の回答をしているものである。また、残りの3項目についても75%に達しないまでも、「賛成」が50%近くある。

今回のBALLIの項目には「外国語学習には多くの暗記を必要とする」という項目がなかったため数字上の比較はできないが、Yangはストラテジーを調査するSILLとの相関分析及び自由記述の回答から、語彙、文法、文章を覚える際に、ストラテジーの使い分けがされておらず、専ら「繰り返し」と「まる暗記」による記憶方法によっていると分析している。これは、今回の言語学習調査表の「Q.17 外国語学習で辛かった経験」の回答で、「暗記」に関わる項目がどのグループにおいても最も多かったことと関係があるのではないだろうか。理解の有無に関わらず、試験などの対策には「暗記」をするが、理解が十分ではない場合、それを「まる暗記」する。そのような暗記は特に苦痛を伴うものである。しかし被調査者は4.1.1で見たように、繰り返し練習、単純な練習などに対する忍耐強さも持っているので、Yangが指摘するように、他のストラテジー使用に至らないまま専ら暗記という方法に頼る。これは板井(2000)が述べている中国人学習者が「暗記に強い」という特徴の功罪ともいえる。

こうして見てみると、台湾の大学生の英語学習に関する確信と日本語学習に関する確信はかなり似ていることがわかる。しかし、問題は、今回の調査表の中ではYangが「英語」としたところを「日本語」とせず「外国語」としたことである。そのため、被調査者は英語学習と日本語学習を特に分けずに回答した可能性も大いに考えられる。これを今回の調査の大きな反省点の一つとして、今後改めて

表 5 Yang (1999) による台湾の大学の英語学習者を対象にしたBALLIの結果

No. ³⁾	項 目	回答者の百分率
# ⁴⁾ 22 ⁵⁾	英語学習の価値と性質に関する確信	99%
32	英語が話せることの重要性	90%
34	英語が上手になりたい	
	私の国では英語が話せることは社会的に評価されている ⁵⁾	88%
	英語を習得すれば、自分の仕事を含めた経歴にプラスになると思う	
20	私はアメリカ人の友達がほしい	78%
7		
9	口頭英語学習の性質	98%
	外国語学習では、繰り返し練習することが大切だと思う	
12	いい発音で話すことは重要なことだと思う	97%
	外国語を学習する時、正しく言えるようになるまでは話すべきではない	92%が 反対
35	英語学習の最良の方法はその言葉が使われている場所で生活することだと思う	90%
	誰でも学習すれば英語が話せるようになる	
3		78%
10	英語学習への姿勢に関する確信	
	外国語学習の特別な能力は、誰でも持つものではないと思う	85%
	すでにある外国語をマスターした人が別の外国語を学習するのは易しいと思う	83%
# 24	構造的な学習に関する確信	
	外国語学習には多くの暗記を必要とする	91%
	外国語学習の初期に誤りを訂正されないと後で直すのが難しくなる	80%

3) YangはHorwitz (1987) のBALLIを使用しているため、項目番号は 表2 表3 表4 のものとは異なる

4) 今回使用した岡崎 (1996) のBALLIの44項目中にはなかった項目を # で表す。

5) 項目22については、今回の調査表作成にあたり設問の仕方に不備があったため、多くの被調査者はここを無回答としていた。そのため今回は検討の対象から除外する。

調査を行いたい。

5. 結語

以上、①台湾大学の日本語学習者はどんな言語学習の確信を持っているのか、②外国語学習の経験（期間）によって確信は変化するのか、③英語学習における確信との相違はあるのか、の3点について考察してきた。①で概観した台湾大学の日本語学習者の確信は、②の課題の学習経験（期間）による変化はほとんど見られなかったし、③での英語学習における確信との違いも見られなかった。つまり、台湾大学の日本語学習者は、外国語学習に関して一貫した確信を持っていることがわかった。

台湾大学の日本語学習者の確信の特徴としては、以下の5点にまとめることができる。(1)効果的な外国語学習については、授業よりも自然習得的な方法のほうが効果があると思われる。そして外国語を使用する環境を作って積極的に関わりを持つことを重視し、その言語の母語話者とのコミュニケーションやテレビ番組を通して生の外国語に触れ、それが理解できた時の達成感を外国語学習の楽しみとしている。(2)外国語の授業への期待は、いろいろな知識を得ることとし、その中には一般的には教室で扱う範囲外といえる俗語のようなものも含まれている。(3)スキルについては発音の正確さが大切であるという確信を持ち、翻訳もやや重視する傾向にあるが、語彙の習得、文法の習得の重要性については中立的である。そしてその正確さは初期のころから重視されるべきだとしている。(4)学習方法については、繰り返し練習や単純な練習に対しては忍耐強さがみられる一方で、理解不十分なことにも「まる暗記」で対処していて、それは外国語学習の上での辛い経験だとされている。

学習者中心の外国語教育における教師の役

割は学習者の学習をバックアップするアシスタントのようなものである。しかし、今回の調査からは台湾大学の日本語学習者は授業以外に積極的に外国語使用環境を作ることの大切さは認識してはいるが、教師の役割を知識の伝授者であると捉えていることがわかった。その知識の範囲は「ナマ」の状況で使用される俗語的なものも含んでいる。日本の商品や情報が溢れる台湾において、そうした知識の扱いは、今後更に議論が待たれる問題である。

本稿では外国語学習に関する確信と学習効果の相関については検証することはできなかった。こうした学習者の確信がその学習効果とどのような関わりがあるのかは知ることができない。しかし学習者が楽しく効果的に学習を継続していくためには、Yangが提案するように、教師が学習に効果的な確信やストラテジーを把握し、学習者がそれらを実践できるように導いていくという教師の役割が期待される。今回の調査から見出された、学習者は理解の有無にかかわらず、「まる暗記」によって対処しているがそれには辛さを感じているという悪循環は、知識伝授だけでなく理解重視の教授法の重要性を示唆していると思われる。

今回は台湾大学での日本語学習者、それも非常に限られた範囲と人数での調査であったため、この結果が台湾大学の学習者の傾向を表しているとは言い難いし、ましてや台湾の日本語学習者がこうした確信を持っているというわけではない。今後は大学生の学習者のみならず近年増えている中等教育における学習者の調査、或いは言語学習の確信やスタイルと学習効果との相関についても調査を進め、効果的な教授法及び学習方法について探っていきたい。

6. 謝辞

今回の台湾大学の日本語学習者の調査にあたっては、日文系1年生、日文系4年生、「大一日文」で筆者の授業を受講していた法学院、社会科学院、管理学院の1年生の皆さん(すべて当時)による協力に加え、日文系の米山先生には貴重な授業時間の一部を頂いた。調査表の中国語版の作成にあたっては、卒業生の陳紀融さんに協力をいただいた。ここに改めて感謝の気持ちを表したい。

7. 参考文献

日本語

- 板井美佐(2000)「中国人学習者の日本語学習に対するBELIEFSについて - 香港4大学のアンケート調査から - 」『日本語教育』104号 日本語教育学会
- 岡崎敏雄・長友和彦(1990)「日本語教育における学習者中心の指導の基盤の確立に向けて」『広島大学教育学部紀要』第2部38号 227-233 広島大学教育学部
- 岡崎眸(1996)「教授法の授業が受講生の持つ言語学習についての確信に及ぼす効果」『日本語教育』89号 日本語教育学会
- 岡崎眸(1999)「学習者と教師の持つ言語学習についての確信」『日本語教育と日本語学習 - 学習ストラテジ - 論に向けて』第10章
- 宮崎里司/J.V.ネウストブニー共編 くろしお出版
- 岡崎眸・堀和歌子(2000)「言語学習についての確信 - 韓国人日本語学習者の場合 - 」『お茶の水女子大学人文科学紀要』第53巻 お茶の水女子大学
- 斎藤ひろみ(1998)「自律的学習能力は養成可能か」『お茶の水女子大学言語文化研究会紀要』15号 1-15 お茶の水女子大学言語文化研究会
- 伴紀子(1992)「言語学習のための学習ストラテジ - 」『日本語研究と日本語教育』213-223 名古屋

屋大学出版社

英語

- Abraham, R. G., Vann, R. J. (1987) Strategies of two language learners: a case study. In: Wenden, A. and J. Rubin. (eds.) *Learner Strategies in Language Learning*. Prentice-Hall International. pp85-102.
- Ellis, R. (1994) *The Study of Second Language Acquisition*. Oxford: Oxford University Press.
- Horwitz, E. K. (1987) Surveying Student Beliefs About Language Learning. In: Wenden, A. and J. Rubin. (eds.) *Learner Strategies in Language Learning*. Prentice-Hall International. pp119-129.
- Horwitz, E. K. (1988) The beliefs about language learning of beginning university foreign language students. *Modern Language Journal* 72, 283-294.
- Kern, R. (1995) Students' and Teachers' Beliefs about Language Learning. *Foreign Language Annals*, 28, No.1 pp71-92
- McCargar, D. F. (1993) Teacher and student role expectations: Cross-cultural differences and implications, *The Modern Language Journal* vol. 77, 192-207
- Oxford, R. (1990) *Language Learning Strategies: What Every Teacher Should Know*. NY: Newbury House
- Rubin, J. (1975) What good language learner can teach us. *TESOL Quarterly*, 9, 41-51
- Stern, H. H. (1975) What can we learn from the good language learner?. *Canadian Modern Language Review* 31, 304-317
- Wenden, A. L. (1987) How to be a successful language learner: insights and prescriptions from L2 learners. In: Wenden, A. and J. Rubin. (eds.) *Learner Strategies in Language Learning*. Prentice-Hall International. pp85-102.
- Wenden, A. and J. Rubin. (1987) *Learner Strategies in Language Learning*. Prentice-Hall International
- Yang, N. D. (1999) The relationship between EFL learners' beliefs and learning strategy use. *System* 27, 515-535

8. 付録

TABLE 全グループ各段階相違出現率 一覧

参加人数 43人、日文系1年生 45人、日文系4年生 33人

(平均年少年齢は17歳を超過五人、%は少数値以下2位を四捨五入)

階級項目	グループ	1	2	3	4	5	相違
		(N)	(N)	(N)	(N)	(N)	(N)
1 日本人のよさに驚かされた日本人の驚かされた理由を述べよう。	日本語1	23	13	8	7	0	0
	日本語4	14	17	0	0	0	0
2 日本人のよさを述べよう。	日本語1	15	17	0	0	0	0
	日本語4	23	7	0	0	0	0
3 日本人のよさを述べよう。	日本語1	17	21	3	0	0	0
	日本語4	14	14	0	0	0	0
4 日本人のよさを述べよう。	日本語1	17	14	0	0	0	0
	日本語4	23	7	0	0	0	0
5 日本人のよさを述べよう。	日本語1	17	14	0	0	0	0
	日本語4	23	7	0	0	0	0
6 日本人のよさを述べよう。	日本語1	17	14	0	0	0	0
	日本語4	23	7	0	0	0	0
7 日本人のよさを述べよう。	日本語1	17	14	0	0	0	0
	日本語4	23	7	0	0	0	0

8 外国人を驚かすための日本語を述べよう。	日本語1	12	23	7	4	0	1
	日本語4	14	23	2	1	0	0
9 外国人を驚かすための日本語を述べよう。	日本語1	17	14	0	0	0	0
	日本語4	23	7	0	0	0	0
10 外国人を驚かすための日本語を述べよう。	日本語1	17	14	0	0	0	0
	日本語4	23	7	0	0	0	0
11 外国人を驚かすための日本語を述べよう。	日本語1	17	14	0	0	0	0
	日本語4	23	7	0	0	0	0
12 外国人を驚かすための日本語を述べよう。	日本語1	17	14	0	0	0	0
	日本語4	23	7	0	0	0	0
13 外国人を驚かすための日本語を述べよう。	日本語1	17	14	0	0	0	0
	日本語4	23	7	0	0	0	0
14 外国人を驚かすための日本語を述べよう。	日本語1	17	14	0	0	0	0
	日本語4	23	7	0	0	0	0
15 外国人を驚かすための日本語を述べよう。	日本語1	17	14	0	0	0	0
	日本語4	23	7	0	0	0	0

17	一日一時間では授業内容を十分に学べないと思う。	日本文学 2.54 2.84	1 2	17 18	42.2 31.2	0.3 1.0	2.8 3.0	1 0	1 0	1 0	1 0
18	私は外国語学習の目的が特別な能力を養っていると思う。	日本文学 2.02 2.02	1 1	17 18	20.0 22.2	0.2 0.3	1.2 1.0	1 0	0 0	0 0	0 0
19	私は外国語の聞き書き練習は授業の重要な部分だと思う。	日本文学 2.87 2.47	1 4	17 18	27.0 16.7	0.3 0.0	0.9 1.1	0 0	0 0	0 0	0 0
20	外国語学習では、聞き書き練習をすることが最も重要な部分だと思う。	日本文学 1.87 1.98	1 3	17 18	14.0 16.7	0.2 0.0	0.0 0.0	0 0	0 0	0 0	0 0
21	聞き書き練習の方が、外国語学習に効いていると思う。	日本文学 2.32 2.51	1 1	17 18	14.0 16.7	0.2 0.0	0.0 0.0	0 0	0 0	0 0	0 0
22	私の側では聞き書き練習をすることよりも他のことに時間を費やされること以上に思う。	日本文学 2.50 2.95	1 1	17 18	16.0 17.0	0.3 0.0	0.0 0.0	0 0	0 0	0 0	0 0
23	私の側では聞き書き練習をすることよりも他のことに時間を費やして時間を費やさず。	日本文学 2.03 2.02	1 1	17 18	17.0 16.0	0.3 0.0	0.0 0.0	0 0	0 0	0 0	0 0

24	外国語を学習しはじめてから最初の時期に一番興味を覚えたのは、その上達するにつれて上達し、海外旅行の計画を立てる事だと思う。	日本文学 1.98 1.98	1 2	18 19	30.0 21.0	0.3 0.0	0.0 0.0	0 0	0 0	0 0	0 0
25	外国語学習のもっとも重要な部分は、その後の海外旅行だと思う。	日本文学 2.22 2.22	1 1	18 19	21.0 21.0	0.3 0.0	0.0 0.0	0 0	0 0	0 0	0 0
26	私が外国語を学習するのには、その後の海外旅行を計画する上での計画を立てたいと思う。	日本文学 2.66 2.66	1 1	18 19	16.0 16.0	0.3 0.0	0.0 0.0	0 0	0 0	0 0	0 0
27	外国語を聞いて理解することよりも、自分で話すのが好きだと思う。	日本文学 2.03 2.03	1 1	18 19	13.0 13.0	0.3 0.0	0.0 0.0	0 0	0 0	0 0	0 0
28	女性グループで女性同士で練習することには大切だと思う。	日本文学 2.09 2.09	1 1	18 19	11.0 11.0	0.3 0.0	0.0 0.0	0 0	0 0	0 0	0 0
29	外国語学習で最も重要な部分として、[]以外の先生といふ練習、[]だと思う。	日本文学 2.47 2.36	1 1	18 19	11.0 11.0	0.3 0.0	0.0 0.0	0 0	0 0	0 0	0 0
30	外国語を学習することには海外旅行、海外旅行を計画することよりも他のことに時間を費やさず。	日本文学 2.03 2.03	1 1	18 19	12.0 12.0	0.3 0.0	0.0 0.0	0 0	0 0	0 0	0 0
31	外国語を学習したら、自分の得意な外国語に[]は自分の得意な外国語であることに時間を費やさず。	日本文学 2.55 2.55	1 1	18 19	17.0 17.0	0.3 0.0	0.0 0.0	0 0	0 0	0 0	0 0

22	外国語を習得すれば、自分の社会生活がめだ程度にどうかに必ず上進する。	日本語1 日本語4	1:47 1:00	(48分) (42分)	(41分) (38分)	(0分) (0分)	(0分) (0分)	(0分) (0分)	(0分) (0分)	(0分) (0分)	(0分) (0分)	(0分) (0分)	(0分) (0分)	(0分) (0分)	(0分) (0分)	(0分) (0分)	(0分) (0分)	(0分) (0分)
23	二つ以上の外国語を習得する人は、 誰のいい人だと思えるか。	日本語1 日本語4	2:42 2:04	(46分) (38分)	(27分) (24分)	(32分) (29分)	(18分) (17分)	(0分) (0分)	(0分) (0分)	(0分) (0分)	(0分) (0分)	(0分) (0分)	(0分) (0分)	(0分) (0分)	(0分) (0分)	(0分) (0分)	(0分) (0分)	(0分) (0分)
24	外国語を習得した人の方が、 日本人の方が、 いい人だと思えるか。	日本語1 日本語4	2:47 2:04	(48分) (38分)	(29分) (26分)	(46分) (42分)	(4分) (4分)	(0分) (0分)	(0分) (0分)	(0分) (0分)	(0分) (0分)	(0分) (0分)	(0分) (0分)	(0分) (0分)	(0分) (0分)	(0分) (0分)	(0分) (0分)	(0分) (0分)
25	習得した外国語を話せば、 外国語を習得 していない人だと思えるか。	日本語1 日本語4	2:26 1:56	(41分) (35分)	(31分) (28分)	(46分) (42分)	(7分) (7分)	(4分) (4分)	(0分) (0分)	(0分) (0分)	(0分) (0分)	(0分) (0分)	(0分) (0分)	(0分) (0分)	(0分) (0分)	(0分) (0分)	(0分) (0分)	(0分) (0分)
26	外国語を習得していない人の方が、 習得した人の方が、 いい人だと思えるか。	日本語1 日本語4	2:50 2:12	(43分) (38分)	(34分) (31分)	(49分) (45分)	(4分) (4分)	(8分) (8分)	(7分) (7分)	(0分) (0分)	(0分) (0分)	(0分) (0分)	(0分) (0分)	(0分) (0分)	(0分) (0分)	(0分) (0分)	(0分) (0分)	(0分) (0分)
27	外国語学習者の習得に於いては、 習得した外国語で話せるようになる と聞いてから始めるよりも、 習得した外国語で話せるよう になるときに習得する方が、 いい人だと思えるか。	日本語1 日本語4	1:09 1:08	(22分) (22分)	(21分) (22分)	(14分) (17分)	(0分) (0分)	(0分) (0分)	(0分) (0分)	(0分) (0分)	(0分) (0分)	(0分) (0分)	(0分) (0分)	(0分) (0分)	(0分) (0分)	(0分) (0分)	(0分) (0分)	(0分) (0分)
28	外国語の習得は、 その習得を習 得する人のために、 習得する人のためであるか。	日本語1 日本語4	1:05 2:49	(27分) (33分)	(27分) (29分)	(23分) (26分)	(0分) (0分)	(0分) (0分)	(0分) (0分)	(0分) (0分)	(0分) (0分)	(0分) (0分)	(0分) (0分)	(0分) (0分)	(0分) (0分)	(0分) (0分)	(0分) (0分)	(0分) (0分)
29	外国語の学習は、 習得も重要な ことであるが、 その習得を習得する ことと比べると、 習得することの方が、 重要なことであるか。	日本語1 日本語4	1:31 1:57	(32分) (38分)	(32分) (35分)	(17分) (20分)	(0分) (0分)	(0分) (0分)	(0分) (0分)	(0分) (0分)	(0分) (0分)	(0分) (0分)	(0分) (0分)	(0分) (0分)	(0分) (0分)	(0分) (0分)	(0分) (0分)	(0分) (0分)

40	外国語を習得すれば、 自分の社会生活がめだ程度に 必ず上進する。	日本語1 日本語4	1:44 1:02	(33分) (27分)	(30分) (27分)	(47分) (44分)	(2分) (2分)	(3分) (3分)	(0分) (0分)	(0分) (0分)	(0分) (0分)	(0分) (0分)	(0分) (0分)	(0分) (0分)	(0分) (0分)	(0分) (0分)	(0分) (0分)
41	二つ以上の外国語を習得する人は、 誰のいい人だと思えるか。	日本語1 日本語4	2:04 2:06	(44分) (46分)	(39分) (42分)	(28分) (31分)	(18分) (21分)	(0分) (0分)	(0分) (0分)	(0分) (0分)	(0分) (0分)	(0分) (0分)	(0分) (0分)	(0分) (0分)	(0分) (0分)	(0分) (0分)	(0分) (0分)
42	外国語を習得した人の方が、 日本人の方が、 いい人だと思えるか。	日本語1 日本語4	1:48 2:12	(38分) (42分)	(44分) (39分)	(49分) (46分)	(4分) (4分)	(0分) (0分)	(0分) (0分)	(0分) (0分)	(0分) (0分)	(0分) (0分)	(0分) (0分)	(0分) (0分)	(0分) (0分)	(0分) (0分)	(0分) (0分)
43	習得した外国語を話せば、 外国語を習得 していない人だと思えるか。	日本語1 日本語4	2:26 1:54	(41分) (35分)	(31分) (28分)	(46分) (42分)	(7分) (7分)	(4分) (4分)	(0分) (0分)	(0分) (0分)	(0分) (0分)	(0分) (0分)	(0分) (0分)	(0分) (0分)	(0分) (0分)	(0分) (0分)	(0分) (0分)
44	外国語を習得していない人の方が、 習得した人の方が、 いい人だと思えるか。	日本語1 日本語4	2:50 2:02	(43分) (38分)	(34分) (31分)	(49分) (45分)	(4分) (4分)	(8分) (8分)	(7分) (7分)	(0分) (0分)	(0分) (0分)	(0分) (0分)	(0分) (0分)	(0分) (0分)	(0分) (0分)	(0分) (0分)	(0分) (0分)